

## J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取西部） 6月号

### ① 田植えに向けて児童が種まき

米子市立淀江小学校は5月6日、地元農家やJ A鳥取西部女性会淀江支部らの指導の下、「ハクトモチ」の種まきを行った。

同校では毎年、総合学習授業の一環として種まきから収穫までの米作りを学び、地元の農業へ理解を深めている。児童らは育苗箱に専用の泥を均等に入れ、事前に学校で水に漬けておいた種もみを丁寧にまいた。



### ② ドローン薬剤散布実演会。省力化や時間短縮などさらなる産地振興に期待

鳥取県とJ A鳥取西部は5月6日、大山町でドローン（小型無人飛行機）による薬剤散布の防除実演会を開いた。

同会はスマート農業推進の一環として行われ、XAG社製のドローン「P30」を使用し、同社と業務提携しているバイエルクロップサイエンスの担当者が機体の性能などを説明した。実演では参加者らが見守る中、地上から2メートルの位置の安定飛行で薬剤を散布し、通常の作業時間の3分の1で散布を終えた。



### ③ 米フェスタ 関係者のみで今年も田植え

J A鳥取西部などで構成する米フェスタ実行委員会は5月25日、伯耆町丸山のふれあい交流田で34回目の田植えを行った。毎年5月に「親子田植え体験」イベントとして開いているが、コロナ禍により中止とし、関係者のみでの田植えとなった。

9月末に行う予定の「親子稲刈り体験」は、感染状況を見て判断することになっている。今後は、稲の生育や田んぼの様子などを同J Aが運用するインターネット交流サイト（SNS）を使って随時更新していく。



フェスタ専用のWEBはこちら ⇒ <https://nousyoku.jp/>

#### ④ 高校生がおいしい食べ方提案で日南トマトの認知度向上へ

日野町の鳥取県立日野高等学校は5月26日、同校3年生が考案した日野郡特産の「日南トマト」を使った料理の試食会を開いた。この取り組みは同校授業の一環で、生徒が地域の課題を見つけ、地方自治体や関係機関などと協力し、解決策を考えるもので、JA日野営農センターの職員や日南トマト生産部員らも協力している。

今後は、「日南トマトを有名にする」を研究テーマに選んだ生徒が開発したレシピの公開やレシピ動画の作成・ネット配信、商品化の提案などで、日南トマトのさらなるPRに取り組む。



以上